

かぜのきざし

2013 AUGUST

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第023号

2013年8月30日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

直前報告

全国在宅ネット第19回新潟の集い in 新潟2013

大会長 黒岩 卓夫

新潟大会の役割と 社会保障制度改革国民会議 最終報告

①基調シンポジウムⅠ・Ⅱ への期待

基調シンポジウムⅠ・Ⅱの2本立てです。Ⅰは国立長寿医療センター総長の大島伸一先生を中心に医療・介護の現場から今大会のメインスローガンである「雪割草! みんなのケアで咲かせよう」地域包括ケアのある暮らし・まちを目指して」を論じます。

国民会議最終報告でもその骨子は、医療は「病院完結型」から「地域完結型」へと「かかりつけ医」の重視と「総合医の養成」です。これは私たちが主張する診療所中心の在宅医療や介護との連携、そして病診連携の必



要性を改めて強調してきたものです。

基調シンポジウムⅡではこの社会保障国民会議を統括した唐澤剛審議官と福祉の大御所大橋謙策先生の講演が中心となります。ここでは国の政策を掘り下げ、高齢者や弱者への負担増も取り上げ、人口減の将来への厳しいビジョンを語ってもらいます。

②実践交流

お陰様で130余の演題が出され、パワーポイント方式、ポスター・テーブルセッションに加え、新しい試みのワールドケア・カフェ方式などで皆さんの生の声をいただき、現場から世の中を変えて行く意欲を示したと思います。

③テーマ別企画・シンポジウム (25企画)

新潟大会は60余名の実行委員が、大会準備をそれぞれの勉強の場として取組ん

できました。テーマ別企画も実行委員会を決め、実行委員が座長となり、多職種協働をテーマごとに検討し深める形になっています。多彩な企画、実力派の講師に期待したいと思います。



④地域の茶の間

医療・介護そして市民とも共に考え実行したいという私たちの理念を一步進める方向で「地域の茶の間」運動の提唱者である河田珪子さんから全面協力をいただきました。その渦のなかに上野千鶴子さんが登場しま

す。楽しみにして下さい。
⑤ランチョンセミナー(20企画)
テーマ企画に劣らず、思い思いのテーマで自由に企画されました。
たとえば、企画シンポジウムの石飛幸三さん、大下大圓さん、黒田裕子さんの講演があります。お見逃しのないように。

⑥懇親会

全国ネットの恒例の懇親会が用意されています。全国でもトップクラスの食材の豊かさ、越後の海山料理と、伝統ある古町芸妓の皆さんの踊りなどがアトラクションになっています。全国からの参加者の心をひとつに熱気で盛り上げて下さい。

⑦ご来場をお待ちします

その上で、重ねて全国の皆さまの多数の参加をお願いしたいと思います。

地元では新潟市共催・全面市民公開になっていますので、市民の参加も期待されています。よろしくお願ひします。

ホームページを御利用下さい。各企画の内容も簡潔に紹介しております。

<http://homecare-niigata2013.geo.jp/>

当ネットワークの会員としてご活躍されていらっしゃる小林るつ子氏が立ち上げられた「玩具福祉学会」及び実践例を掲載させていただきます。自己紹介の部分も小林様にお願いいたしました。

「皆が笑顔になる為に」

玩具福祉学会 小林るつ子 理事長

1981 年の国際障害者年に、障がい児の為のおもちゃの図書館の全国組織を立ち上げました。理念は「地域で生きることを支える」事です。全国 500 か所のおもちゃの図書館活動を進めました。1999 年に、この団体を止めて当時の宮崎県知事、浅野史郎さんの助言で「玩具福祉学会」を立ち上げました。障がい児の子供は 30 歳～40 歳になり高齢化が進んでいます。在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの大会には、仙台大会の時から参加しています。ここで多くを学びました。玩具を使い高齢者の方々が尊厳を守るために「玩具療法」を実践しています。

若い人を育てる為に聖徳大学の兼任講師をして居ます。



障がい児と 30 年以上関わり子ども達は 30 歳～40 歳になりました。

高齢障がい者です。認知症などで淋しい顔をしている方々と、遊んでみましたが、やはり元気になり魔法のように、変わります。

苛原実先生と厚労省の研究費で調査しましたが、ここで科学的検証を得ました。小さな学会ですが「玩具福祉学会」は、この実践を「玩具療法」として推進して居ます。福祉用品は個人で買うのはとても高価です、おもちゃ屋さんでみつけた「玩具」が、高齢者の余暇活動を豊かにして、楽しい時間を過ごすことは高齢者の幸せに繋がります。「玩具福祉学会」の名誉会長は元宮城県知事浅野史郎さんです。

「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」の会には宮城大会のころから参加して 10 年以上です。3・11 の東日本大震災の被災地でも仙台的川島孝一郎ドクターの要望で、多くの電動動物や話しをする人形を在宅の認知症の

方々に送りました、心の癒しになりました。玩具はロボットの様に唄い、話し、鳴く、など玩具の開発は先端技術を

導入して居ます。介護職員も利用者も皆で笑顔になります様にお祈りします。



玩具協会活動事例

生きていることの喜びのために

医療法人あすか 副院長 高橋真弓

当院での玩具療法は2008年、京都で開催された診療所ネットワーク全国大会のランチョンセミナーから始まり、セミナーでは玩具福祉学会理事長の小林つ子先生の実践報告がありました。人を寄せ付けない固い表情から穏やかな幸せそうな表情に変わっていく男性高齢者、玩具を通して人と人がつながっていく様子に心を動かされました。

実践報告の動画を見て、おもちやはずももの遊ぶもの、大人をおもちやで遊ばせるなんて失礼では……という思いを吹き飛ばしてくれました。翌年の前橋大会では、駅前の蕎麦屋さんで小林先生の「玩具人生」をお聞きすることができました。子どもころから外国人がいつも出入りし、英語が飛び交う家庭で育ったこと、結婚後、子育てや家事を両立出来る仕事として翻訳の仕事を始め、それがたまたまフィッシャープライス

というアメリカでも最先端のおもちやメーカーのカタログの翻訳だったことが小林先生のおもちや人生の始まりでした。それからはおもちや一筋。当時西武百貨店社長

だった堤清二氏に請われて、西武デパートでおかあさんのためのおもちや相談を始めたところ障害児を持った親たちや障がい児の専門家も相談に来るようになったそうです。さらに英国のトイライブラリーのことを知り、いても立っていられずイギリスへ研修の旅へ。帰国後は、日本全国におもちや図書館を次々と設立。そして10年前には玩具を子供達だけのものではなく、高齢のとりわけ認知症や心身の障害を持った方々への実践を始めた方々でした。寝たきりで笑った

ことがなかった子どもたちがおもちやに出会い初めて笑った感動にたくさん出会い、多くの親たちに子育ての喜びや生きる力を与えてこられた小林先生の新しい挑戦でした。そして、私たちも先生の全身から溢れるエネルギー、満面の笑顔に魅せられて玩具療法の取り組みを始めまし

た。2011年には当院で外部にも呼びかけて玩具療法セミナーを開くことができました。だんだんと玩具療法という言葉が職員にも根づいてきました。今年は私どもの法人内で、小林先生にいらしていただき玩具療法の研修会を開きました。利用者の方の笑顔や力、そして生きていること

の喜びを引き出し、人と人をつなぐために玩具を自在に活用できる職員がいっぱいたらどんなにか素晴らしいだろうなと思いつながら企画しました。介護の現場が、人が生き生きとし、わくわくする場所になるよう職員と一緒にたくさん「引出し」を作っています。

第6回 玩具療法士養成セミナー

11月16日(土)・17日(日)

玩具福祉学会では、玩具を用いた社会福祉援助活動を実践する専門家の養成を目指して本セミナーを実施してまいりました。このセミナーは人生の各ライフステージにおいて玩具の果たす役割とその活用方法を学び、適切な実践を行うことができる「玩具療法士」の養成を実施するセミナーです。現在各地域において、多くの玩具療法士の方々が、御活躍中です。

多くの方々が、福祉現場での実践活動を広げる専門的な技法を学ぶ為に、今回も下記のようにセミナーを開催いたします。是非、受講いただきますようご案内申し上げます。



■受講人数

50名(申し込み先着順)

■受講費用

2万5千円(玩具福祉学会員 2万円)

■会場

こどもの城 8階会議室
渋谷区神宮前5-53-1

■プログラム

日時	講義内容	講 師
11月16日(土)		
9:30~10:00	開講式・オリエンテーション	
10:00~11:00	「玩具療法の実践と効果」	小林のつ子(玩具福祉学会理事長)
11:00~12:00	「玩具療法の実践方法」	神谷 明宏(聖隷大学)
13:00~14:20	「高齢者の行動と心理」	井上 健(精神科医)
14:30~15:50	「リハビリテーションと玩具」	岩島和香(理学療法士)
16:00~17:20	「認知症高齢者の特性とその対応」	菅原 実(いらいら診療所院長)
11月17日(日)		
9:30~10:50	「障がい児と玩具療法」	渡辺 勲(特許タリストファア大学)
11:00~12:20	「こどもの成長発達と玩具」	出口貴美子(山口小児科医療院院長)
13:30~14:50	「高齢者の施設活動と重宝性」	石川 浩江(おののこやわらばり理事長)
15:00~15:45	「玩具療法士審査レポートの書き方」	西本 望(筑波大学)
16:00~	終了証授与・閉講式	

■資格認定について

①全日程を受講した方には玩具福祉療法士養成セミナー受講終了証明書を授与致します。

②玩具療法士養成セミナー受講終了証明書を有し、玩具福祉学会に入会後、実践事例レポートは定時受け付けます。2000字以上を提出して、審査に合格した方には「玩具療法士」を授与します。

問い合わせ先

TEL: 0422-48-8500

(理事長 小林のつ子宅)

お申し込み先

〒191-0041 東京都日野市南平7-18-30

FAX: 042-599-2949

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

全国大会デジタルアーカイブ公開直前情報

風の萌22号でもご紹介しました、「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 全国大会 実践交流会」を、報告集または抄録集の内容よりデジタルアーカイブ化する作業が佳境を迎えております。

デジタルアーカイブを閲覧するにあたり、ホームページに『会員専用ページ』(写真1)

真1) を設けました(現在準備中)。デジタルアーカイブの閲覧対象はネットワーク会員限定とさせていただきます。今回新たに会員の皆様に、ユーザー名とパスワードを発行し、この風の萌23号に同封させていただきます。そのユーザー名・パスワードを入力して(写真2)、ホームページの会員

専用ページへログインが可能になります。デジタルアーカイブでは、『大会名』『カテゴリ』『タイトル』『カテゴリ内フリーワード』で内容を絞って検索し(写真3)、目的の演題を閲覧することができます(写真4)。

『風の萌』や『メールマガジン』のバックナンバーの閲覧も準備しています。こちらも近日公開を予定しています。公開日等の詳細が決まりましたら、ホームページにてお知らせ致しますので、もうしばらくお待ち下さい。(東京事務局/佐伯・等々力・犬童)



写真1



写真2



写真3



写真4

新規購読のご案内

高齢者の住まいと介護・医療を考える

週刊 高齢者住宅新聞

～「サマー特大号(8月7日号)」主な特集内容～

- ◎高齢者住宅・施設 運営居室数ランキング 全国トップ450法人
- ◎処遇まるわかり『介護事業者給与調査』
- ◎自治体はどう動く?『認知症施策』針路を探る
- ◎介護施設におけるBCPの取り組み
- ◎生命保険現物給付で介護は変わるか?
- ◎座談会『幼老一体ケアの課題と展望』
- ◎設計一つでここまで変わる高齢者施設のケア
- ◎「高齢者住宅フェア2013in東京」開催レポート など

高齢者住宅新聞
媒体概要

- 発行形態 定期購読・タブロイド版(20ページ～) 毎週水曜日発行(月4回)
- 主要読者層 施設運営協会、介護サービス会社、医療法人、社会福祉法人、人材サービス、給食配食会社、不動産・建設会社、土地所有者、設備機器・建材、システム関連、金融関連、自治体ほか

年間購読料

21,000円(税込・送料別)

TEL

03-3543-6852

ホームページ

<http://koureisha-jutaku.com>

メール

info@koureisha-jutaku.com

FAX

03-3543-6853

下記に必要事項をご記入の上FAX下さい。

購読の申し込みは
右記のいずれかの
方法で

株式会社高齢者住宅新聞社

〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15

TEL:03-3543-6852 FAX:03-3543-6853 <http://www.koureisha-jutaku.com>



台湾シンポジウム開催

日台福祉医療連携シンポジウム 及び施設見学

桑原由次

2012年度NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民ネットワーク事業計画「アジア福祉・医療協働推進事業」の一環として日台福祉医療連携シンポジウム及び施設見学を企画した。生憎の台風により施設見学は中止されたが、日台福祉医療連携シンポジウムでは、日台の現状と課題を共有し、介護の質の向上及びアジアにおける福祉・医療協働の展望について内容を深めることが出来た。

(1) 企画名

日台福祉医療連携シンポジウム 及び 施設見学

(2) 目的

① 高齢化の先進国としての経験とノウハウを生かしつつ、アジア諸国との相互の比較検討の中で質の追求をしていく
② 昨年度の韓国に引き続き、台湾との連携を深める

(3) 日程

2013年7月12日～15日

(4) 参加

苛原会長他理事中心に19名
(5) 視察先(台風のため中止)
国立台湾大学付属病院金山分院

雙連安養中心
馬偕醫學院

(6) 日台福祉医療連携シンポジウム

1. 日時：7月14日

2. 場所：台湾大学交友会館

3. 概要

① 「日本における医療・介護の融合のあり方」
座 長・陳節如 立法委員(台北市籍国會議員)

演 者・苛原実

テーマ・「医療モデルから生活モデルへ日本における多職種連携のあり方」

② 「日本における医療・介護の融合のための共通理念、実務経験、給付制度」
座 長・陳節如 立法委員(台北市籍国會議員)

内容・畑恒土『在宅医療とは』

和田忠志『日本の在宅医療・在宅ケア制度論』

大澤誠『日本の在宅医療・

介護の共通理念 多職種協働と多職種協学』

③ 「台湾のコミュニティ医療グループ、地域健康教育」
座 長・劉建國 立法委員(雲林縣籍国會議員)

演 者・周明岳 医師(高雄榮總高齡醫學中心)

胡淑惠 看護師(成功大学醫院)

陳英仁 医師(林口長庚醫院高齡醫學中心)

院高齡醫學中心)



Mail Magazine

今回は「風の萌」より会員紹介のコラムの2013.5～7月号を掲載いたしました。

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配布されている記事の転載版です。(スタイル等は一部変更しています。)メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。

事務局ニュース2013・5

医師・法人会員活動紹介

「医療法人松尾クリニック」

医療法人松尾クリニック 院長 松尾 美由起



松尾クリニックは大阪府の近鉄八尾駅の近くに生まれ今年で28歳になります。
1) 納得のいく質の高い診療
2) 親身になった在宅医療
3) 患者会を通じての患者さんとの交流を基本方針としています。

(1) クリニックの外來

専門は循環器でしたが、他の多くの分野の疾患に悩む方達に出会い、たくさん勉強させていただいています。



一緒に病に取り組む姿勢を職員とともに持ち続けています。現在の外來患者さんたちの平均年齢は68.6歳で、圧倒的に生活習慣病が多くみられます。糖尿病療養指導士2名と定期的に行なう糖尿病教室には、調剤薬局の薬剤師さんにも参加してもらい、運動療法ではボウリングなどでのたのしみが続いています。管理栄養士による指導にも力を入れて

おり脂肪肝の方にも喜んでもらっています。

(2) 在宅医療

28年前はまだ在宅医療幕開けの時代で、診療点数もなく、コーディネートのような事も含め試行錯誤の連続でした。

2000年に訪問看護ステーション「来夢」と「在宅支援センター」を立ちあげ、現在は難病や悪性疾患の緩和ケアが主となり24時間体制でナース達と共に忙しくしています。最近では在宅医療を勉強したい先生方の見学も受け入れていきます。

(3) 患者会

開院当初から出入り自由の患者会「松樹会」を作り、ボランティアと共に年に3回、100名ほどが集う会を継続しています。医療や予防の話題を提供し、レクリエーションも欠かしません。毎月1回手先の訓練も兼ねて書道や七宝焼き、転倒防止のため太極拳をしており、年に1回の患者さんとの日帰り旅行や作品を展示する「みんなの作品展」も好評です。

摂食回復支援食

人あいにと



摂食回復支援食とは… 通常の食事を取ることが難しい方の食べる機能と栄養摂取を支援するための食事です。

お問い合わせ・資料請求の連絡先



イーエヌ大塚製薬株式会社

東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング13階

お問い合わせ窓口

TEL.03-3515-0170

月曜～金曜 9時～17時(祝祭日、年末年始、お盆を除く)

(4) デイケア

患者さんの提案がきっかけで「パワーリハ」も使ったデイケアを始めて10年になり、楽しくリハビリしています。

(5) 今後は

「楽しくないと長続きしない」をモットーに走り続けてきました。今後も少しでも快

事務局ニュース2013.6

医師・法人会員活動紹介

「医療法人順心会前田クリニック」

医療法人順心会 前田クリニック 院長 前田重成

当クリニックは「地域のかかりつけ医」を目指すべく、平成8年に大阪府南河内郡河南町に開業し、17年が経ちました。開業当初より訪問診療を行っており、現在は強化型在宅支援診療所(無床)とし、常勤医師2名、非常勤医師2名の体制で外来、訪問診療を行っています。

私は、自宅という家族にとってかけがえのない場所で、患者様と家族様との間で医師として納得いくまで関わりがもてることに、訪問診療の醍醐味を感じております。

適な療養生活を送ってもらうため「そばにいる医療」をスタッフと共に実践していきたいと思います。

医療法人松尾クリニック

〒581-0802
大阪府八尾市北本町2-15-25
TEL: 0729-991-6586
Email: matsuo@organooc.ne.jp
URL: <http://www.reference.co.jp/matsuo/>

訪問診療を行うなかで、自宅で過ごしたいという思いと

それが困難である現実との狭間の中で治療を行う難しさも感じ、平成17年に社会福祉法人を設立し、特別養護老人ホームを初めとする介護老人福祉施設(入所109名)、ショートステイ(20名)、デイサービス、訪問看護、訪問介護、居宅介護支援事業所などを立ち上げました。他の事業所では受け入れ困難な状態不安定な患者のショートステイやデイサービスなど、自宅で生活するにあたり各々に必要な介護

サービスを提供することにより、希望にあった在宅生活を可能にする体制を構築していく一方、施設入所をご希望される方には住み慣れた地域の施設で第2の家として生活していただいております。

訪問診療は月に50〜60人行なっています。在宅で最期を迎えられる人は年20〜30人、また施設で終末期を過ごされる人は年20〜30人に及んでいます。

当初は在宅の患者様は高齢者がほとんどでしたが、最近では癌末期、ALS等の難病、高度医療児の訪問診療が多くなりました。そのため、保健所訪問看護、訪問介護、ケアマネジャーなどとの連携がさらに重要となってきたり、日常生活を自宅で過ごしたくともかなわなかった小児や難病の患者様、また自宅で最期の時を過ごしたいと考えておられる癌末期等の患者の思いに少しでもこたえる事ができればと思っております。

現在、医療・介護を通して患者様ご家族様また地域の皆様とかかわりをもつなかにおいて、一人の医師として出来

ることは限られておりますが、ネットワークをもとに連携し、少しでも地域に貢献していける存在でありたいと切に願っております。

医療法人順心会 前田クリニック
〒585-0034
大阪府南河内郡河南町神山269
TEL: 0721-931-8850
FAX: 0721-901-2031
Email: maeda@organooc.ne.jp
URL: <http://jyunshin.or.jp>



エレクトロニクスで病魔に挑戦

NIHON KOHDEN

わたしたちが、夢の実現を
お手伝いいたします。
すべては、医院開業の
成功のために。

61A-0294



おかげさまで創立60周年

ヘルスケアの未来を拓く

〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4

創立/1951年8月

事業内容/医用電子機器の開発・製造・販売、医院開業支援

日本光電 医院開業支援

検索

<http://www.nihonkohden.co.jp/iryo/practice/>

E-mail: Kaigyo@mb8.nkc.co.jp

事務局ニュース2013・7

医師・法人会員活動紹介

「医療法人社団 敬和会」

理事長 金澤 重俊

私ども医療法人社団敬和会は、地域の皆様が、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、24時間365日の在宅医療・在宅介護の提供に努めてまいりました。

昭和61年、法人の前身であるかなざわ内科にかかっていた1本の電話。脳梗塞の後遺症で寝たきりの患者様の奥様から、往診を依頼する電話で



した。この電話をきっかけに訪問診療・訪問看護を始め、自ら病院に行くことができない方に自宅に向いて診療を行い、時には患者様の最期を看取することも多くありました。しかしようやく患者様のご自宅にお

護サービスを総合的に提供できる在宅ケアシステムが構築できました。特に法人の中心である日高見中央クリニックにおいては、設立当初から行ってきた訪問診療・訪問看護について、「北上市全体が大きな病院」であり「患者様のご家庭は設備が整った病棟」、そして「私どもの診療所は地域の医局でありナースステーションである」という考え方で、住み慣れた自宅でも24時間365日、安心して療養生活を送ることができるよう支援してまいりました。その結果、日高見中央クリニックの訪問診療登録患者様のうち、60%を超える方が自宅で最期を迎えることができております。これこそが私ども敬和会が取り組んできたものであり、その成果です。

今後も地域社会に貢献できるように、地域とともに歩んでいきたいと思っております。

医療法人社団敬和会
〒024-0072
岩手県北上市北見柳2-46
TEL: 0197-61-0888
FAX: 0197-61-0808
Email: home@keiwakai.info

後援

地域医療研究会 全国大会 2013 in 埼玉

主催：地域医療研究会

テーマ 少子高齢社会における医療・介護・福祉

2013年9月15日(日)・16日(月・祝)に、『地域医療研究会 全国大会2013 in 埼玉』が東京国際フォーラムで開催されます。

当、在宅ケア全国ネットが後援をしており、シンポジストとして**苛原会長**、**新田理事**が参加

します。今回の大会では、「少子高齢社会における医療・介護・福祉」のテーマの他に、救急医療や認知症を正面から言及するほか、メディカル・ソーシャルワーカー(MSW)の役割についても検討します。

風の萌

2013年8月30日発行(第023号)

頒 価：1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokunet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市中区栄山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

∞∞∞編集後記∞∞∞

日本各地で記録更新が続く暑い夏になりました。暦の上では秋ですが、まだまだ暑い日が続きそうですので、熱中症にはお気を付け下さい。

さて、新潟大会も開催まであと少しです。是非皆様のご参加をお待ちしております。

(東京事務局/等々力)